

チャレンジいばらき

いばらきチャレンジアワード「支え合い2024」

いばらきチャレンジアワード「支え合い2024」 ファイナリストプレゼンテーション・表彰式



私のボランティア talk & matching



特集

いばらきチャレンジアワード 「支え合い2024」

ファイナリストプレゼンテーション・表彰式

- 学生によるボランティア体験ルポ事業
- 社会活動デビューセミナー
- 私のボランティア talk&matching
- 花いっぱい運動定着化促進事業
- LINE講座
- あいさつ声かけ運動
- 寺子屋サローン

特定非営利活動法人ただいま



花いっぱい運動定着化促進事業





大井川知事と喜びの記念撮影



質疑にも丁寧に回答



茨城県に関するクイズ大会



熱のこもったプレゼン



運営をサポート 県民活動推進員



休憩時間に情報交換



いばらきチャレンジアワード「支え合い2024」

茨城県知事賞 受賞

特定非営利活動法人ただいま

～令和版「駆け込み寺」を目指して～ 地域全体で子どもを見守り、子育てを支える居場所の運営活動

皆さんが最近、お寺に行ったのはいつでしょうか。墓参りぐらいでしか行かないお寺も、かつては地域の身近な存在でした。お寺の広い敷地や設備、何より数百年もの歴史の中で培った地域との信頼関係を活かし、気軽に悩みを相談できるもっと開かれた令和版“駆け込み寺”になりたい。住職と坊守をしている私たち夫婦のこの思いが活動の原点です。子どもを遊ばせながらおしゃべりや情報交換ができるママ向けの子育てカフェから始まり、近所にある小学校の児童に放課後の居場所を提供する寺子屋、不登校の子どものためのフリースクール、フードパントリーなどを展開しています。「子どもの意見を尊重してくれる」、「孤独や不安が安心感に変わった」といった利用者さんからの声。コンビニより多い全国のお寺にこの活動が広がれば、もっと多くの人を助けられるのではないのでしょうか。悩みを吐き出す場が足りない現代社会において、これからも「大丈夫だよ」と受け止められる場でありたいです。



代表理事 増田 真紀子さん



公式ホームページ

抱えている課題はありますか？

人手不足でしょうか。ボランティアは平均4・5人、多くて7人程集まりますが、常勤スタッフが雇えればと思うことも。特に、20人以上の小学生を預かる「てらこや」は、大人ができるだけ隙を作り、子どもたちが遠慮なく声をかけられる環境が重要で、人手が必要。大人とのふれあいを求めている子どもたちの気持ちに応え、小さなSOS発信もしっかり受け止められる体制を整えたいです。

他の団体や行政機関との連携を増やすコツはありますか？

出会い自体をチャンスと捉え、関わった人との間で出来ることを増やしていくうちに、連携の輪が広がってきました。私たちの活動は、地域食堂、子育て支援、子どもの居場所づくりなど、様々な世代が集まるので、人の輪が広がりやすいのかもしれませんが、周りの方が繋いでくれるばかりでなく、講演会に行って、この先生いいなと思ったらアプローチするなど、自ら掴みに行くことも大切です。

今後取り組みたい活動はありますか？

高校生の居場所づくりと、地域に多い独居老人に関すること。引きこもりになりやすい通信制高校生に向けて、寺へ来る何か役割があるフリースクールはどうか？とか、独居老人のための地域食堂を高校生達と作るのどうか？などアイデアはあります。本当に必要な支援が何なのかは、これから出会い、参加してくれる高校生たちと一緒に考えながら取り組んでいきます。





賞状を受け取る笑顔のファイナリスト



特別賞の授与(茨城トヨペット株式会社賞)



特別賞の授与(水戸ヤクルト販売株式会社賞)

地域の困りごと解決など、社会の新たな力になりたい方々に向け、独自の社会貢献プランを発表する場を提供する「いばらきチャレンジアワード」。幅広い分野の優れたプランを表彰し、非営利活動を促進することで、持続可能な地域社会を目指します。たくさんの応募の中から一次審査を通過した7組のファイナリストが10分の制限時間で、福祉や居場所づくり、外国人支援などをテーマにした熱意あふれる公開プレゼンテーションを繰り広げました。

※オンライン同時配信

令和6年11月24日 日 ホテルレイクビュー水戸



ファイナリストプレゼンテーション・表彰式

チャレンジいばらき県民運動理事長賞 **受賞**

特定非営利活動法人 ユアフィールドつくば

ごきげんテーブルのお弁当販売

大学在学中の議員インターンシップで、障がいのある人が働ける場所が少ないことや農業の担い手が不足している現状を知り、その課題解決のため卒業後に立ち上げたのが「ごきげんファーム」です。有機野菜やお米の栽培・販売、竹細工制作、養鶏など色々な事業を障がいのある人と一緒に取り組んでいます。私たちが実現したいのは、障がい者と地域とが信頼関係を築き誰もが安心して暮らせる地域を作ることです。そのために、夏祭りや野菜収穫など農業を基軸にしたイベントでお互いのつながりを構築してきました。新しく立ち上げたごきげんファームの野菜と卵を使ったお弁当の販売は、地域との絆をより強くする大切な事業と考えています。障がいの有無によって分断されがちな社会を、食の事業で少しずつ交わらせて共に楽しく過ごせる世界へと変えていく。これまで以上に農業と食の事業を充実させて、皆さまに心から喜ばれる活動にしていきたいと思ひます。



代表理事 伊藤 文弥さん



公式ホームページ

農業の取り組みについて教えてください

福祉施設が独自に質の高い農作物を作るのは難しいため、農業に精通した先生からノウハウを学びながら取り組んでいます。障がいのある人には収穫や袋詰めなどの作業を中心に携わってもらっています。また、養鶏では餌づくりから鶏舎用のビニールハウスの組み立てまで、ゼロから一緒に始めました。障がい者が軽度の人から重度の人まで幅広く利用されており、ご自分に合った形で、作業に関わってもらっています。

地域の中における活動に対する思い入れは？

農業や食を通じて地域で障がいのあるなしに関係なく、人と人が出会える場所を楽しみながら作れたら、との思いで活動しています。ただし、出会いの場は提供できても「ここへ来たならこうあるべき」と、考え方で強制することはしたくありません。お弁当や野菜が買えたり、お祭りや勉強会に参加できたりと楽しい機会がたくさんあって、誰もが気軽に入って来られることも大事だと思います。

これからの目標は何でしょうか？

現在、多くの人たちがイベントに参加してくれますが、まだ、コミュニティ形成には十分至っていないと感じています。今後は、自然にコミュニケーションが生まれる仕掛けを工夫していきたいです。一つのテーマに沿って自然に地域の中で顔がつながっていくような子ども食堂の取り組みや、医療や介護分野の強化などやりたいことはたくさんあります。将来的にそれらが相乗効果を生んで私たちにしかできないことができれば良いですね。



いばらきチャレンジアワード「支え合い2024」 ファイナルプレゼンテーション

- 1 活動概要
- 2 プレゼン内容
- 3 今後の目標

奨励賞

任意団体 みんなの制服リユース UNICLE (ユニクル)

みんなの制服リユース UNICLE

- 1 使わなくなった制服や体操服をリユースし次の使い手にバトンを渡す。
- 2 中学校入学の準備には多額の費用がかかり、制服のリユースは子育て当事者同士の共助と位置づけ活動。制服回収会での反響や応援の声に事業の必要性を感じた。
- 3 情報伝達の強化や支援拡充のため、子育て・国際交流に関わる団体、子ども食堂などと連携を図る。子どもたちが経済的格差に左右されることなく未来へ向けてチャレンジできるようサポートしたい。



巨 友美さん



染野 コミさん

奨励賞

社会福祉法人 絢会

普通に暮らす幸せを。多世代が集い支え合う居場所

- 1 「普通に暮らす幸せ」を理念に介護保険サービスや地域貢献活動を展開。
- 2 要介護の状況でも社会の中で人とつながり幸せな暮らしを実現できる居場所を開設。子ども食堂などの活動から世代を超えた温かい交流が生まれ、それが互いに支え合う力になっている。
- 3 声を聞く・力を生かす・一緒に作る、の3点を大切に、完成を目指すのではなく、未完成を楽しみながら地域に新たな価値と活力を生み出すことがこれからのチャレンジ。

会員企業特別賞

日東電気 株式会社賞

茨城大学松井労働法ゼミとチーム・フランポネ

笑いを通じて実践する多文化共生と地域創生

- 1 笑いをミックスして難しい労働法を楽しく学べる新しい取り組みを実践。
- 2 増加する在留外国人が地域の一員として街づくりに関わるには言葉や心の壁の払拭が課題。漫才を活用した日本語講座や多文化交流、大会などを実施し、それらを街おこしにも結び付けていく。
- 3 この取り組みで国籍や年齢、障がいの有無などに関わらず、みんなが地域社会に笑って参画できる茨城モデルを構築したい。これは、地域の人口減少や労働力減少といった課題の解決にもなると考える。



松井 良和さん



三淵 和也さん

茨城トヨペット 株式会社賞

特定非営利活動法人クラブ・ドラゴンズ

スポーツアドベンチャー

多種目のスポーツ体験を通して子どもの運動不足を
解消・運動への苦手意識を克服するスポーツ教室

- 1 年齢や運動能力の異なる人々が地域で色々なスポーツを楽しめるクラブを運営。
- 2 運動不足解消や苦手意識の克服などを目的に子どもを対象にした多種目スポーツの体験教室を立ち上げた。障がいのある子の受け入れや自治体と連携した廃校の有効活用など社会的課題の解決にも取り組んでいる。
- 3 子どもがここでの体験を機にスポーツ大会への出場といった大きな目標を持てる、そんな教室でありたい。また、もっと地域の方々へ団体と活動が認知されるよう努めていく。

水戸ヤクルト販売 株式会社賞

ニエケひとみ

スリランカ(母語&英語)補習教室

- 1 八千代町の地域おこし協力隊として外国人住民の支援や多文化共生の施策に貢献。
- 2 在留外国人の子どもを対象にした母国語の補習教室でアイデンティティの醸成を支援。母親には日本語学習の機会を確保する。この運営に外国人も携わることで地域における多文化共生の土壌づくりになる。
- 3 補習教室を基盤に外国人住民が交流し学び合える多文化共生ハブを設置し、みんなに優しい地域社会づくりにチャレンジ。日本人と外国人が協力して構築する新しい多文化共生モデルを茨城から全国に広めたい。



ニエケひとみさん



チャレいば 新規事業報告

学生による ボランティア体験ルポ事業

学生が地域とつながる一歩を応援!

ボランティアなどの社会活動を実践してみたいと考えている学生を対象として、希望する活動に参加できるよう、茨城県内の団体を紹介するとともに、その経験を「ボランティア体験記」にまとめ、SNSなどで発信。また、事前にボランティア活動にあたってのマナーや体験記の書き方について学ぶ研修会を開催するなど、初めてでも安心して活動に参加できるようサポートしています。



参加者の声

NPO法人ノースマーク主催「親子向けワークショップ」にチャレンジ!

これまでボランティア経験はありましたが、新しいことに挑戦してみたいと思い参加しました。子どもたちの制作活動のお手伝いや親子との関わりを通じ、ボランティアの面白さややりがいを実感しました。



川瀬 真緒さん
(常磐大学3年)

For Everyone Study主催「オンラインゲーム交流会」(不登校児童生徒支援活動)にチャレンジ!

もともとボランティア活動に興味があり、何かしてみたいと思っている時にこの活動に出会いました。何度か参加するうちに、子どもたちが安心できる場の大切さに気付くことができました。今後も継続して参加していきたいと思います。



飯村 旺我さん
(茨城大学2年)

協力団体の声

もりサポ塾体験プログラム「中学生対象の学習支援」

ボランティア体験の受け入れにより、新たな刺激を受け、生徒も講師も集中し、より意欲的な雰囲気になったように感じました。大学生は生徒にとって将来への憧れとなる存在です。これからも、共に子どもたちの成長を支えてくれる方が増えてくれれば嬉しいです。



NPO法人SEA.ing体験プログラム「ビーチクリーン」

茨城県の海岸での活動を通じて、中高生や大学生が環境について考えるきっかけをつくる活動に取り組んでいます。本事業を通じ、学生がより主体的に関わる機会をいただけたことは、私たちにとっても非常によい経験となりました。今後も多くの方にご参加いただき、活動の輪を広げていきたいです。



協力団体 (ボランティア体験受入団体)

団体名	体験プログラム	活動地域	体験記
CoderDojo Mito	プログラミング体験会	水戸市	●
認定NPO法人 茨城NPOセンター・ コモンズ	①子ども食堂 ②生きづらさを抱える方 のための居場所 など	水戸市	●
NPO法人 子ども食堂れん	①子ども食堂 ②イベント企画・運営	北茨城市	
Big smile project	非課税世帯対象 総合的子ども支援	つくば市	
つくば子ども 支援ネット	子育て世帯向け フードパントリー	つくば市	●
NPO法人ただいま	①フリースクール ②放課後の居場所 など	ひたちなか市	●
NPO法人 あっとホームたかまつ	①子ども食堂 ②親子調理体験会	鹿嶋市	
NPO法人 ファーストペンギン ネットワーク	①地域振興イベント (サイクリングツアー) ②多世代交流イベント (スポーツ鬼ごっこ)	鹿嶋市	
もりサポ塾	中学生対象の学習支援	守谷市	●
フレンズサポーター	外国籍の子どもたちのための 就学サポート	筑西市	
NPO法人SEA.ing	ビーチクリーン	鉾田市	●
NPO法人いっどり	施設ボランティア (障がい者福祉サービス事業所)	阿見町	●
NPO法人 ノースマーク	親子向けワークショップ運営	全県	●
For Everyone Study	オンラインでの 不登校児童生徒支援	全県	●

※団体によっては、複数ボランティア体験プログラムをご提供いただいています。

体験記はコチラから
ご覧ください



Note



Instagram

令和6年度 社会活動 デビューセミナー



茨城県三の丸庁舎 (交流サルーンいばらき)

このセミナーでは、毎回、地域の課題解決など社会の新しい力になりたい皆さんを応援しています。今回も、様々な経験や試行錯誤を経て現在は幅広く活躍されるゲストの方々に、地域活動に役立つポイントをお話いただきました。

第2回 令和6年11月9日

オープンな人間関係構築の極意

家業のクリーニング店を再建するため帰郷するも、長く悩まれたのが社内での人間関係です。「大切なのは人を知ること」という助言で(TAという)フロイト系の心理学を学び、「この人はダメだ」という負の感情が相手に伝わり嫌がられていたことに気がきました。「みんなが好きになるのは人の役に立って喜ばれる人間。良好な関係は自分から作るしかない」。会社の中が良くなっていったのは、私がこう意識を変えた時からです。地域との関わりも増えてきた中で、商店会と協力して人が集まることを目的に始めた立ち飲み処。知らない人同士が会って課題を話していると解決につながる案や人材に巡り合える場になっています。問題解決に大切なのは、何かのリソースではなくて新しいものの見方や捉え方なのかもしれないと感じています。



株式会社 tree
代表取締役 谷川 祐一さん

第3回 令和6年11月9日

生き方の一部としての女性の働き方

子育てをしながら仕事をするのは難しい。でもそれは正社員の働き方の話で、自分で何かを立ち上げるという選択肢もあります。私は、我が子に電車内で授乳していた時に受けた辛い体験から授乳服の製作を始めました。赤ちゃんは母乳をもらえると安心できます。子育て中のお母さんは仕事にも行けないし、大変なのが当たり前という常識を打破するため、授乳服を活かした情報発信やイベント、子連れ出勤などに積極的に取り組んできました。新しいことを始める時、それを誰かに話すのはとても勇気が必要ですが、まずは「どう思う?」と聞いて旗を立ててみましょう。生活の中で何か気付いた課題があったら自分自身が動いて発信する。次第に仲間ができて目標がクリアになります。仲間づくりのためにも、地域の活動など色々関わっていた方が良い時代です。



有限会社モーハウス
代表取締役 光畑 由佳さん

第4回 令和7年2月1日

地域企業として取り組む地域活性化

人口9,000人弱の熊本県南関町で竹箸の製造・販売をしています。若者は卒業後に町を出てしまい高齢化率は約4割。私もUターンして家業を継ぐ際、「田舎で一生を終えるのか」と不安を覚えましたが、田舎だから何もできない、ということはありません。現在、自社ブランドを作り、国内外問わず取引をしており、使命感を持って、竹箸の魅力を全国に発信しています。地域活性化の鍵は、「仕事・賑わい・産業」の創出です。魅力的な仕事の提供は若者の定着化のきっかけになり、賑わいは新たなつながりを生み出します。実際、店舗イベントを開催したところ、1年で12,000人が来場。「竹箸の産地＝南関町」として認知されるため、アワードやメディア露出など外からの評価を重視しています。地域活性化にもビジネススキームに基づいた取り組みは大切です。



株式会社ヤマチク
代表取締役/CEO 山崎 彰悟さん

令和6年度

花いっぱい運動定着化促進事業

今年度は、県内で花壇づくりに取り組んでいる21団体を認定しました。認定証交付式の後、水戸市植物公園の木村弥生園芸指導員から、園内も案内いただきながら、「花壇デザインの作成」や「管理方法」のポイントなどをわかりやすく説明していただきました。

令和6年12月12日
水戸市植物公園



市町村	団体・学校名	市町村	団体・学校名
水戸市	新六番池自治会	東海村	中丸コミュニティセンター
日立市	水木十文字花壇を守る会	水戸市	水戸市立立葉台中学校
取手市	公益社団法人取手市シルバー人材センター	土浦市	桜川保育園
取手市	つなぐ(双葉地域交流センター)	古河市	古河市立総和北中学校
つくば市	桜が丘自治会	牛久市	牛久市立牛久第二小学校
鹿嶋市	高松地区まちづくり委員会	つくば市	つくば市立谷田部小学校PTA
鹿嶋市	中長寿会 防犯花壇の会	つくば市	つくば市立荊崎第二小学校
常陸大宮市	若林つばさ会(お花の会)	ひたちなか市	ひたちなか市立外野小学校
稲敷市	三次ボランティア	坂東市	坂東市立七郷小学校
茨城町	みどりの風クラブ	坂東市	坂東市立生子菅小学校
		坂東市	認定こども園すずのき

私のボランティアtalk & matching

茨城県内でボランティア活動を行っている団体の取り組みを紹介する場を設け、新たなボランティア活動者の参加を促進するとともに、活動者同士の情報交換・ネットワーク拡充を図り、地域における共助のための活動を活性化します。

第2回 教育

令和6年10月8日 火

さまざまな事情で塾に通えない守谷市内の中学生を対象に、サポーター（地域ボランティアなど）による学習支援を行っています。サポーターの協力で実施している子ども食堂やパンの配付は、参加を促すきっかけにもなっています。（親の都合によらず）生徒が自ら通えるように、拠点を確保しながら、学習の機会を与えられる場所であり続けます。

もりサボ塾
代表 川崎 文さん



大学時代の経験（コロナ禍で教育実習が中止・短縮）から、小学校教員を務めながら、つくば市を拠点に教員志望の学生の支援を始めました。学校現場の課題や実態と大学での学びに生ずるズレをオンライン教育実習で補うほか、大学生スタッフが参加する、みんなの食堂や教育イベントなど地域振興に根ざした活動も行っています。

一般社団法人 もあふる
代表理事 竹之内 大輝さん



プログラミング教育の需要に反し学びの場が少ないため、IT業界での経験を地方創生に活かしたいと、茨城県北起業型地域おこし協力隊として小学生向けプログラミング教室を運営しています。楽しい体験が地元に戻るきっかけとなるよう、地域施設を活用したイベントの実施や拠点運営など、県北に人が集まり続ける仕組みづくりをしています。

まちなかプログラミングラボ
代表 西村 建郎さん



第3回 子ども

令和6年12月10日 火

龍ケ崎市で米農家を営むなか、農業の後継者不足に危機感を抱き、「農業を子どもたちのあこがれの職業に!」と掲げて食農教育活動を始めました。食農教育プレゼンターの育成やデジタルコンテンツで簡単に食農教育を行える環境を整えました。現在、食農教育プレゼンターは、34都道府県174名にまで増え、さらに活動の場を拡げていきます。

AGRI BATON PROJECT
代表 横田 祥さん



子どもの原体験を豊かにし、すべての子どもたちが自信を持って生きる社会を目指して、県内外にあそび場・居場所の提供をしています。“場”には、人の介在が重要であるため、場の環境を整えるプレイヤーカーがボランティアとして関わっています。子どもたちの挑戦を当たり前をサポートする場として、まちの子どもを大切に育んでいきます。

一般社団法人 まちのこ団
代表理事 増田 大和さん



土浦市民の高齢化や、地域で学ぶ機会が減少していることから、活力ある土浦を次世代に残すこと、高校生の社会的能力を育むことを目的に活動しています。知る・考える・行動するのステップで、高校生が地域課題を自分事として捉え、課題解決に取り組んでいます。わかものへの投資が街全体を豊かにするサイクルの実現を目指します。

土浦わかものまちなかプロジェクト
代表 酒井 慶太さん



第4回 居場所づくり

令和7年1月14日 火

家族のケアや介護だけに自身の時間を費やすケアラーの方が助けを求められる場所が必要と感じ、活動を始めました。苦悩を吐き出せば生きる希望が生まれます。「おとな食堂・おかえり食堂」は食を通じた他者との交流から心の余裕を取り戻す居場所です。当たり前前の安心を得られる場所の存在が希望に繋がることを教えてもらいました。

特定非営利活動法人ソワンアンドソワ
理事長 中島 沙都美さん



上京者の故郷にある実家の改修と親との思い出を作る手助けをしたいと考え活動しています。原点は上京中に親が他界し実家は荒れてしまい、思い出も残せなかった自身の後悔です。改修により実家は民泊施設などの有効活用も可能になります。施工仲間とのつながりを築きながら、地域の魅力向上や居場所づくりにも関わってきたいです。

KENPOKU PROJECT E所屬
NIKD 代表 後藤 大樹さん



サドベリースクールは既存以外の学び場の一つです。子どもには自ら育ち学ぶ力が備わっているという方針のもとスクールを運営しています。話し合いをして互いの考えを尊重する。やりたいことを決めるのは子どもたちです。時間はかかりますが、自分の感性を大切に人の意見を聞き、自身を客観的に見られる大人へ成長できると考えています。

サドベリースクールつくば空
スタッフ 山元 みちよさん



県民活動推進員 活動レポート

チャレンジいばらき県民運動とともに、地域の課題の解決や活性化を目指して活動しています。

LINE講座 地域活動に活かすLINE講座 ～LINEグループを活用しよう～

県民活動推進員のIT活用グループが主催したLINE講座を県内2カ所（坂東市、笠間市）で実施しました。



あいさつ声かけ運動

11月のいばらき教育月間に県内の駅やスポーツイベントで実施された、あいさつ声かけ運動街頭キャンペーンに県民活動推進員、ネットワークャーが参加し、施設の利用者に元気なあいさつを届けました。



寺子屋

NPO・地域活動者向け交流・学び合いの場

サローンを開催しました【会場】茨城県三の丸庁舎

「寺子屋サローン」とは、県内のNPO・地域活動実践者向けの気軽に参加できる学び合いの場です。

参加型学習を通して「参加者同士の情報交換・交流」「活動のスキルアップ」「団体間の連絡・協働」を行っています。

第37回 令和6年10月6日回

超高齢社会体験ゲーム 『コミュニティコーピング』

～みんなで協力して社会的孤立を解消しよう!～

【講師】植竹 智央さん
(For Everyone Study代表)

プレイヤーと協力しながら住民の悩みを解決するボードゲームを使用し、社会的処方体験をするだけでなく、多世代交流もできました。



第38回 令和6年12月1日回

SNS時代の情報力 ～正しく見極め、賢く発信する～

【講師】奈良間 英樹さん
(特定非営利活動法人セカンドリーグ茨城副理事長)

SNSリテラシーや効果的な投稿方法について学びました。「誰に・何を伝えたいか」を参加者同士で話し合うことで、交流も生まれ有意義な講座となりました。



第39回 令和7年1月18日回

地域とつながる広報講座 ～PR手法の使い分けで 広がる活動の輪～

【講師】新妻 幹生さん
(合同会社イナヅマ代表)

自ら情報提供するだけでなく、他者により拡散させるためのポイントなどを学びました。ブランド設計のワークショップは、活動を見直す“気づき”の多い時間となりました。



INFORMATION

チャレいばレターVOL.19 アンケート

広報紙をご愛読いただき、誠にありがとうございます。今後の広報紙をさらにより良いものとするため、アンケートにご協力ください。ご協力いただいた方の中から、抽選で5名の方にプレゼントが当たります。

応募方法 右の二次元バーコードから読み取り、応募フォームから応募いただくか、はがきに

- ①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号
- ⑥「チャレいばレターVOL.19」の感想やご意見をお書きの上、ご応募ください。(応募は1人1回まで)



応募先 ▶ 〒310-0011水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎2階
チャレンジいばらき県民運動事務局アンケート係

今回はコレ!!

団体会員 (株)セイフ食品[筑西市]詰め合わせギフト

1981年創業。主にチョコレート加工品やスナック菓子を製造。製品は、オンラインショップのほか、道の駅(グランテラス筑西)や工場直売所などで購入いただけます。

※写真は一例であり、別の商品が届くこともあります。



VOL.18 読者の声

生活学校とデザイナー学園コラボのファッションショーをたまたま現地で見ました。その時のシニアの生き活きた姿を冊子の表紙他で見ることが出来て嬉しく感じました。

締切▶2025年(令和7年)4月15日(当日消印有効)

- 当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
- ご記入いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用させていただきます。
- いただいた感想等は、チャレいばレターの紙面やSNS等に掲載させていただくことがありますので、予めご了承ください。

編集 後記

チャレンジいばらき主催のアワードや社会活動デビューセミナーに参加するたび、若い方々の優れた能力に心から感銘を受けます。できれば、まだ表舞台に立っていない隠れた才能を持つ方々を見つけ、紹介したいと考えています。県民運動に携わる者として、他者をリスペクトする姿勢はとて大切だと思っています。もっと耳を傾け、今まで聞こえなかった声を素直に受け入れられるよう努めます。読者と共感し合える紙面を、これからも目指していきます。(県民活動推進員 高橋)

お問い合わせ

チャレンジいばらき県民運動 広報紙

【発行】チャレンジいばらき県民運動 令和7年3月1日発行
【編集】県民活動推進員(魅力発見・発信グループ)



チャレンジいばらき県民運動

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎2階
Tel.029-224-8120 Fax.029-233-0030

ホームページ ▶ <https://challenge-ibaraki.jp> E-mail ▶ info@challenge-ibaraki.jp

